

宮崎県の土砂災害の歴史

株式会社 防災地理調査 今村隆正

1. はじめに

筆者は、日本全国の歴史時代における土砂災害の調査研究を続けている。本発表は、令和4年度 砂防学会研究発表会の会場である宮崎県の事例について、これまでの調査成果を発表するものである。

宮崎県は、九州の南東部に位置し、東西約70km、南北約160km、面積7,735 km²である。北部の多くは九州山地が占め、その東縁に宮崎平野が広がり、西部は韓国岳、新燃岳、高千穂峰などの霧島山が存在する。

地質は、西南日本外帯に位置し、北東-南西方向の帯状に地質体が分布する。北西部の五ヶ瀬町等の一部は秩父帯に属し、他の地域は四万十帯に属する。また、南部の海岸部は宮崎層群が分布し、都城盆地付近から鹿児島県境にかけてはシラスが広く分布している。

気候は、太平洋側気候に属し、日本でも有数な温暖地帯である。降水量は、全域で年間に2,000mm以上あり、全国屈指の多雨地帯である。

2. 地震の記録と土砂災害

宮崎県に被害を及ぼした歴史地震は、南海トラフ地震（南海地震）、日向灘地震、霧島などの火山活動に影響された内陸直下型地震の主に3タイプである。

南海トラフの巨大地震では、山崩れ、家屋倒壊、津波などによる被害を受けてきた。日向灘地震は、数十年間隔で繰り返し発生し、津波による被害記録が多く残されている。特に、寛文二年（1662）に発生した日向灘地震は「外所（とんどころ）地震」と呼ばれ、宮崎市郊外に供養碑も建立されている。火山活動に影響されて発生する地震は、震源が浅いために局所的に大きな被害が発生する。また、宮崎県には明瞭な活断層はない。

このように、歴史上何度も地震災害に見舞われている宮崎県であるが、明らかに地震を誘因として発生した歴史に語り継がれるような大規模な土砂災害の記録はない。

3. 降雨を誘因とした土砂災害

宮崎県は、ほぼ全域が年間降水量2,000mmを超え、更に山岳地帯では3,000mmを超える多雨地域であることから、土砂災害の多くも降雨を誘因として発生している。

(1) 寛永十九年（1642）「西都市三納山の崩壊と堰止め」

「佐土原藩騒動記」（宮崎県立図書館所蔵）に、「三納山崩壊ノ事」という小見出しとともに三納山の土砂災害の記述が残されている。佐土原領の三納山（現在の西都市三納付近と考えられる）が大きく崩れ川を堰止めた（天然ダム形成）という記録である。その後、天然ダムは決壊し下流域に被害を発生させた。

(2) 昭和29年（1954）9月13日 「椎葉村大河内の山津波」

台風12号の豪雨により、宮崎県では死者51人、行方不明13人、家屋全壊350戸の大被害であった（宮崎地方気象台、1967）。椎葉村では各所で山崩れが発生し土砂災害による被害が甚大であった。特に被害が大きかったのは、本郷地区と丸野地区で、死者14人、流失家屋23戸であった。土石流によるものである。

(3) 昭和44年（1969）「三股町勝岡のシラス崩壊」

梅雨前線による豪雨を誘因として、三股町勝岡の町道沿いの法面が崩壊し下校途中の中学生4人が犠牲になった土砂災害である。崩壊地の規模は幅30mほどで大規模ではなかったが、豪雨による水分を多量に吸収して重くなったシラスが崩壊すると、このような大災害になることが強く認識された土砂災害であった。

(4) 昭和47年（1972）「えびの市真幸山の土石流」

霧島山周辺が梅雨前線の豪雨に見舞われ、真幸駅の裏山が大きく崩れ、崩壊土砂は土石流として流下した。これにより、行方不明者4人を出した。

(5) 平成17年（2005）「台風14号災害」

宮崎県では、台風14号の豪雨により、椎葉村上椎葉、宮崎市鰐塚山、美郷町島戸をはじめ、県内各地で大規模崩壊やそれによる河川の堰止め（天然ダム）、土石流などによる土砂災害が発生した。

表1 宮崎県の主な土砂災害年表

発生日月	誘因	発生日点	土砂災害概要	位置
1642.9.3 寛永十九年 八月九日	降雨	西都市 三納	山崩れが大川を堰き止め、 決壊し下流の田畑埋没。	①
1662.10.31 寛文二年 九月二十日	地震 (外所 地震)	宮崎市 内海	堀切峠、延岡、高鍋、佐土 原、飢肥等に山崩れ。	②
1854.12.24 安政元年 十一月五日	地震 (安政南 海地震)	延岡市 他	南方村、北方村、佐土原、 高原等の各地に山崩れ。	③
1954 昭和29年 9月11～13日	降雨 (台風 12号)	椎葉村 大河内	大河内本郷では河川の堰 止め・決壊。吐野谷では土 石流により14人が犠牲。	④
1968 昭和43年 2月21日	地震 (えびの 地震)	えびの市 真幸	シラス崩壊多数発生。地震 による被害は、死者3人、 家屋破損多数。	⑤
1969 昭和44年 6月30日	降雨 (梅雨 前線)	三股町 勝岡	シラス崩壊。下校途中の中 学生4人死亡。慰霊碑が建 立されている。	⑥
1972 昭和47年 7月6日	降雨 (梅雨 前線)	えびの市 真幸	真幸駅裏山が崩れ土石流 となり、真幸駅、全壊家屋 27戸、死者4人。	⑦
2005 平成17年 9月4～7日	降雨 (台風 14号)	椎葉村 他	上椎葉の土石流で死者3 人、島戸の地すべりは耳 川に天然ダムを形成。	⑧

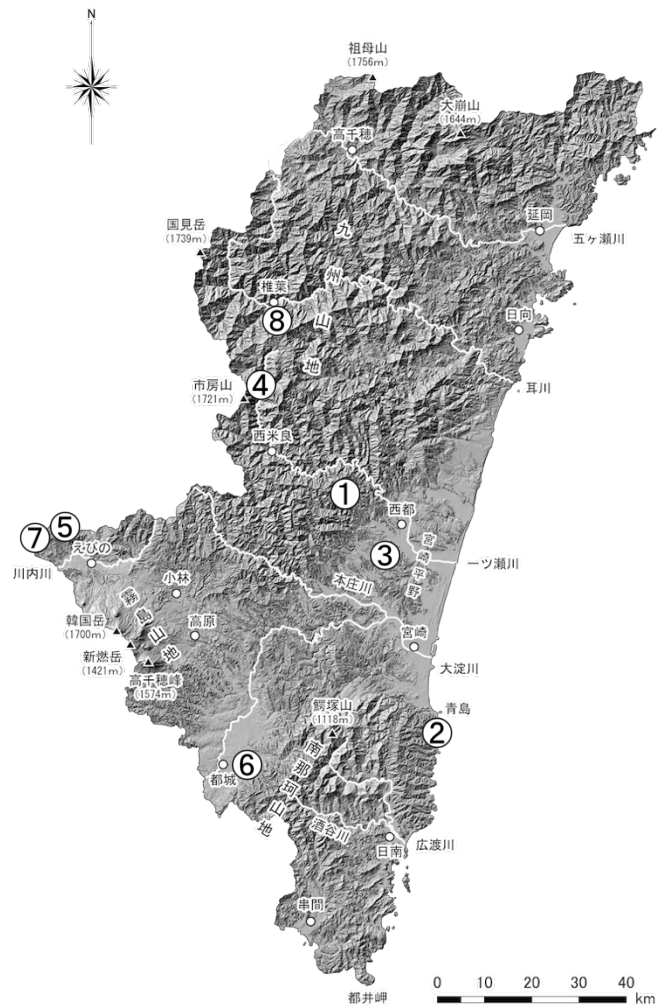


図1 宮崎県の主な土砂災害発生位置図
(地理院地図に加筆)

4. 宮崎県の土砂災害の歴史と特徴

宮崎県では、梅雨前線や台風による豪雨、日向灘地震や南海地震を誘因として土砂災害が繰り返し発生している。また、鹿児島県境付近のシラス地域においては、この地域特有の土砂災害も発生している。

しかし、江戸時代などの古い時代の歴史資料には、個々の発生場所が特定できるような記録はあまり存在しない。その理由は、山崩れそのものは繰り返し発生していても、奥山である場合が多く人々の生活に直接影響しなかった現象も多かったものと考えられる。

現代社会となり、宮崎県は、高千穂峡や日南海岸をはじめ観光資源を多く有し、観光客も多く、防災対策は大変重要である。特に、山間地での避難は困難な場所も多く、避難経路や避難のタイミング等について課題は多く残されている。

5. 文献

宇佐美龍夫・石井寿・今村隆正・武村雅之・松浦律子(2013)：日本被害地震総覧 599-2012，東京大学出版会，694p.

「佐土原藩騒動記 日向動変記事」：宮崎県立図書館所蔵。

地震調査研究推進本部：宮崎県の地震活動の特徴。

宮崎県(2000)：宮崎県史 通史編 近世上，795p.

宮崎県土木部(2006)：宮崎県における災害文化の伝承，72p.

宮崎地質研究会(2013)：宮崎県の地質 フィールドガイド，コロナ社，190p.

宮崎県総合政策部統計調査課(2021)：第137回宮崎県統計年鑑，357p.